

サラリーマン 最強戦略

カリスマ経営コンサルタントの教え

沢村 旭
Sawamura Shu

青山ライフ出版

サラリーマン最強戦略

カリスマ経営コンサルタントの教え

目次

エピソード1	出会い	8
エピソード2	改心	28
エピソード3	妻の決意	38

エピソード 4	男の影	44
エピソード 5	家庭崩壊	48
エピソード 6	危機一髪	53
エピソード 7	出世の条件 I	56
エピソード 8	左遷人事	79
エピソード 9	出世の条件 II	86
エピソード 10	内部告発	94
エピソード 11	学習開始	99
エピソード 12	出世の条件 III	103

エピソード 21	人事異動	143
エピソード 20	ノーサイド	141
エピソード 19	出陣	138
エピソード 18	二世誕生	136
エピソード 17	顧客接待	131
エピソード 16	相談	125
エピソード 15	受験勉強	122
エピソード 14	不正発覚	116
エピソード 13	一次試験	113

あとがき	156		
エピソード23		別れ	149
エピソード22		最終日	146

装幀
杉下城司

エピソード1 出会い

「まるで二十年前の僕だな……」

太く落ち着いた声が隣の席から聞こえた。

「んっ？ な、なんだ、この男は……」

ひどい脱力感と酔いのせいで、僕は体を起こすことができなかった。

「そんなに酔って、どうしたんだい？」

カウンターに凭れ掛って寝ている僕に、その男は話しかけてきた。顔を上げるのも面倒な僕は、カウンターに額を付けたまま答えた。

「すみません。みつともない姿をお見せしちゃって……。すぐ帰りますから、気にしないでください」

男は静かに続けた。

「折角カウンターで一緒になったんだから、少し話でもしないか？」

正直なところ、こんなにみつともない姿を誰にも見られたくなかった。だからこそ、こんな場末のBARに来たのだ。僕は、面倒臭そうに体を起こし、眠い目をこすりながら男の顔を見た。

見たことがない男だった。口元は少し微笑んではいるが、眼差しには突き刺すような鋭さがある。その白髪混じりの頭髮から、五十代半ばの会社員といったところだろう。仕立ての良さそうなスーツとセンスの良いメガネが知性を醸し出している。

「はい、じゃあ少しだけ……。かなり酔っぱらっているのです。すみません」

男は、煙草の煙を大きく吐き出した。

「今日はどうしたんだい？ 少し荒れていたみたいだが」

「実は、上司から今日怒鳴られました……。むしゃくしゃして、ヤケ酒を飲んでいま

した」

「僕も昔はよくヤケ酒を飲んだものだよ……。それで、何があつたんだい？」

昼間の出来事を思い出した途端、急に怒りが込み上げてきた。

「そうなんですよ。今日は本当にムカついたんです。僕が取引先へ行こうとした時に、席を立ったら、次長が『あの案件どうなった？』って突然訊くんですよ。それで『今から取引先へ行くので、帰って説明します』って言ったら、今度は『ばかやろー！ だからお前はダメなんだっ。きちんと報告してからにしろっ！』って怒鳴るんですよ。僕は訳が判らず、『でも時間が無いので、後でもいいですか？』って訊いたら、『勝手にしろっ』って言われて……。幾らなんでも、そのタイミングで、それも皆の前で言わなくてもいいじゃないですか……」

「……」

男は黙って聞いていた。